

平成 24 年度文学研究科共同研究経費申請書

<b>研究代表者 (申請者)氏名</b>	吉田耕太郎 (よしだこうたろう)	<b>専門分 野・ コース名</b>	ドイツ文学専門分 野	<b>職名</b>	准教授
<b>研究課題名</b>	ヨーロッパ文化としてのグランドツアー				
<b>研究目的</b> 〔研究の目的、その意義と予想される成果、新規科研費獲得に向けた準備状況などを記入してください。昨年度科研費を申請して不採択になった場合は、研究継続・再申請準備状況も記入してください。〕					
<u>*研究目的</u>					
<p>ヨーロッパでは17世紀から19世紀はじめまで、グランドツアーと呼ばれる修養旅行がおこなわれていたことは良く知られている。ヨーロッパ各地の宮廷を順に訪問する貴族の子息のグランドツアーは、貴族社会へのお披露目を意味していた。また市民や商人の子弟にとって、この旅は教育や修業の仕上として舉行されたもの、活字でしか知らなかった古典世界を実際に体験する機会、ヨーロッパ各地の取引先との顔つなぎの機会となるものであった。もちろんヨーロッパの作家たちの多くも、グランドツアーを体験していた。グランドツアーの旅程や規模は様々であるが、ギリシャ・ローマの古典文化の花開いた、キリスト教の聖地イタリアを目的とするという点で共通していた。まさにグランドツアーは、ヨーロッパ文化の担い手たちが共有した体験であり、グランドツアーをナショナリズム勃興前の汎ヨーロッパ文化の共通基盤として研究する枠組みを検討するのが、本研究の目的である。</p> <p>ヨーロッパを縦断するグランドツアーの記録には、汎ヨーロッパ的な「共有された文化体験」と、言葉、習慣、政治体制の違いなどに起因する「差異の文化体験」というベクトルの異なるふたつの文化体験の層が刻み込まれている。「共有された文化体験」を軸として、この時代に形をとりつつあったネーションステートという政治単位を超えた、ヨーロッパ文化と呼べるようなものの姿を具体的に描き出すことが可能となる。それと同時に、もう一方の「差異の文化体験」からは、19世紀のナショナリズムの萌芽とも呼ぶべき、ヨーロッパ内のローカルな差異意識の成立に光をあてることもできると期待している。</p>					
<u>*予想される成果と意義</u>					
<p>グランドツアーについては、イギリス、フランス、ドイツでは1980年代に研究し尽くされた感があるが、90年代以降のジェンダーおよびナショナリズム研究や新しい学問領域であるヨーロッパ民族学の成果の蓄積は十分に反映されているとはいえない。また小さなモノグラフィーは継続的に発刊されてはいるものの、ライナー・バーベルとヴェルナー・パラヴィッチーニによって開催された1999年(スイス)、2000年(フランス)の2回にわたるグランドツアーに関する大規模な国際学会以降、本格的な共同研究はおこなわれていない状況が続いている。本共同研究では、90年以降の研究成果を批判的に引き受けながら、グランドツアーについての共同研究の可能性と射程について検討することで、最終的に、大型の共同研究にふさわしいアクチュアルな研究の枠組みを獲得できると期待している。</p>					
<u>*新規科研費獲得に向けた状況</u>					
<p>本共同研究申請者である本研究科のメンバーは現在のところ全員科研費を取得しており、個人研究を行っている。ただし複数の研究者が複数の大学にまたがって共同でおこなう大型の課題で応募するためには、長期的な視野にたった準備が必要である。本共同研究を実施することにより、ヨーロッパ文化史・文学史に関する、地域横断的で革新的な問題を見つけ出し、将来の科研費獲得に着実に近づけていきたい。</p>					

## 研究計画・方法

〔研究計画・方法を具体的かつ詳細に記述してください。また、研究経費（4ページに内訳を記載）の必要性・妥当性を明確にしてください。〕

### \*研究計画・方法

グランドツアーはヨーロッパ各国を縦断する旅行であった。それゆえ、グランドツアーの実質的な研究には、ヨーロッパ全体を視野にいれる研究体制が必然的に要求される。本研究科には、イギリス、フランス、ドイツの17、18世紀の文学や文化を専門とする服部、山上、吉田がいる。また美術史の分野には、16世紀から18世紀までのイタリアの建築文化を専門とする桑木野がおり、17、18世紀の西ヨーロッパ全域の文化現象をカバーできるという他の大学にはみられない研究体制がある。こうしたスタッフが協力体制をとることにより、グランドツアーを総体的に問い直すことが可能となる。

本共同研究では、17、18世紀のイギリス、フランス、ドイツのグランドツアー体験者の記録を分析（服部、山上、北原、吉田が担当）し、さらにツアー目的地であるイタリアの同時代の状況の報告（小澤、桑木野が担当）を重ね合わせることで、グランドツアーをおこなった人々が共有した体験と差異の体験をあきらかにする。また研究の質と発展性を維持するために、この分野で優れた業績を上げている、東京及び北海道の研究者にも参加を要請している。またヨーロッパの研究対象としている大学院生も積極的に参加させることにより、教育的な効果もねらっている。

9月22日に打合せの機会をもつ。この打ち合わせでは研究代表者である吉田が本研究会の主旨と、グランドツアー研究の現状についての報告を行う。また参加者全員で、11月と12月に開催予定のワークショップのスケジュールを調整し、研究分担者には各自の研究テーマについて簡単な予告をしてもらい検討する。

11月中旬（大阪）、12月中旬（東京）にワークショップ（日程は調整中）を開催し、共同研究者全員が口頭にて研究発表を行う。

上記ワークショップの日程は調整中のものであるが、将来の科研申請で要となる研究の意義や研究計画のたたき台となるものにしたい。なお共同研究の成果は、平成25年度中に、研究者各人が学術雑誌に論文の形で発表することになる。そのため以下の検討会を開催する。

平成25年3月初旬に本共同研究を総括するための検討会を大阪で開催し、研究成果の公開についての方法およびスケジュールについて確認し、今後の共同研究の継続方法について検討する。

### \*研究経費の必要性

以上の研究計画を実現するために、大阪・東京・北海道間の交通費および出張先での宿泊費計11件（約515千円）と、さらに共同研究分担者各人の研究主題に即した参考図書の購入代金として、少なくとも180千円（研究者1名あたり30千円）は必要となる。（なお、この参考図書購入代金の一部は文献複写料、資料の郵送費、印刷製本費に転用される可能性がある）。

## 研究組織

氏名	年齢	所属機関・部局・職名	専門分野
吉田耕太郎	*	文学研究科准教授	ドイツ文学
小澤京子	*	東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター（UTCP）」特任研究員	イタリア美術史・文化史
北原博	*	北海学園大学法学部教授	ドイツ文学・文化史
桑木野幸司	*	文学研究科准教授	イタリア建築史・美術史
服部典之	*	文学研究科教授	英文学
山上浩嗣	*	文学研究科准教授	フランス文学

※1行目に研究代表者（申請者）を記入してください。

※本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

## 研究スケジュール

時期	内容
9月下旬	共同研究の打ち合わせ（大阪）
11月中旬	ワークショップ I.（大阪）
12月中旬	ワークショップ II.（東京）
平成25年3月初旬	本共同研究の総括検討会（大阪）

**外部資金応募・獲得状況**（最近5年間のものまたは応募予定のもの）

外部資金の名称 と研究期間	研究課題名・ 研究代表者氏名	全研究期間 の総研究費 (単位：千 円)	採 否	本申請との関連性
日本学術振興会 科学研究費補助 金、基盤研究 (C)2012-2016	18世紀ドイツの印刷メディアとしての児童文学の成立-『子どもの友』を例に・吉田耕太郎	5200	採 用	研究代表者がこれまで進めてきた18世紀の印刷メディア研究を継続するものである。ただし個人研究である。左記研究期間の終了後、大型の科研費に応募するための準備として、本共同研究を活用したい。